

## 第6回県政ひざづめ談議結果概要

- 開催時間：平成22年7月21日 16:00～
- 開催場所：山梨県農業共済会館
- 対話グループ：就農定着支援研修生の皆さん

### ○司会

大変、お待たせをいたしました。

知事が到着いたしましたので、早速、県政ひざづめ談議を始めさせていただきます。

まずはじめに、横内知事からあいさつをお願いします。

### ○知事

改めまして、皆さん、こんにちは。

今日はそれぞれお忙しい中をよくお寄りいただきまして、ありがとうございます。

皆さん方には就農定着支援制度、それ以外のものもあるかもしれませんが、そういう制度の中で農業を目指していくと。とりわけ果樹農業をはじめとする山梨の新しい農業をつくっていくと。そういう思いを強く持っていただいて、現在、研修を受けていただけるわけでございます。

正直言って、皆さん方に対する期待は、私どもも大きいですし、それから山梨県の農業界全体の期待も極めて大きいものがあるわけでありまして、ぜひ一つ頑張ってくださいたいと。

そして将来は山梨の農業を支えると、そういう心構えでぜひ取り組んでいただきたいと思うわけでありまして。

とりあえずは、その研修を受けて、高い農業技術を身に付けていただくわけですが、将来は恐らく皆さん、それぞれ独立をして、農業を始められる。それに対して、いろいろなわれわれの支援制度というようなものを考えていきますけれども、そういう先々のことも含めて、いろいろなご意見、あるいはご心配、いろいろなことがあると思いますが、そんなことを何でも結構ですから、常日ごろお考えになっていることを遠慮なくおっしゃっていただければありがたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

### ○司会

それでは続きまして、本日同席をしております県の担当者を紹介させていただきます。

農業経営を支援するための農業制度資金のほうを担当しております、斉藤農業技術課長です。

### ○農業技術課長

斉藤でございます。よろしく申し上げます。

### ○司会

就農担い手の総合対策などを担当しております、大島担い手対策室長です。

○担い手対策室長

大島です。よろしくお願いいたします。

○司会

それでは早速、ひざづめ談議を始めさせていただきます。

○知事

順番ということもないですが、何か。どこでどういうことを今やっているか。それでいろいろやっている中で、こういうことが心配だとか、こういうことをもつと県にやってもらいたいとか、そんなこと、何でも結構ですからどうぞ。

割とあまり日に焼けていませんね。

○参加者

韭崎の穂坂のほうでぶどうの技術指導を受けております。

もとは甲府だったんですが、近いほうがいいのかと思い引っ越しまして、農業をこれからずっと続けていくという決心をしまして、頑張っていこうかと思っているんですが。

○知事

農業大学へ行ったことがあるんだよね。

○参加者

はい、そうです。

○知事

1年ですね。

○参加者

はい。

○知事

1年じゃ、なかなかえらいですよ。

○参加者

正確に言うと9カ月ほどなんですが、やっぱり果樹というのは1年単位ぐらいで作業もありますので、そういう不安もありまして、こういう制度があるということで、受けることにしたんですが。

○知事

指導者は厳しいですか。

○参加者

そうですね。農大当時から農家研修という形でお世話になりまして、私としてはかなり信頼をしています。

○知事

毎朝何時かにいって、夕方に帰ってくるみたいな感じ。一緒に農業をやって。

○参加者

そうですね。ちょっと前までは忙しくて、やっぱり結構の広さをやっておられる方なので、朝の4時半とか、そのくらいから暗くなるまでという形なんですが。

○知事

今は、ぶどうの種類が1つ出終わったということですか。

○参加者

というか、広さがあるもので、その作業に、どんどん違う種類で追われていく感じになっていて、ご夫婦で2人でやってられるという家だったので、私のほうもやっぱりできれば力になりたいと思っていて、そういう意味合いも。

○知事

今度は収穫期が忙しくなると。

○参加者

そうですね。収穫期には忙しくなりますね。しょうがないかなと思っけていますけれども。

○知事

何種類、どんなものを。

○参加者

そうですね。大粒系では巨峰とかピオーネとか、藤みのり、あとゴルディー、ロザリオビアンコ、そのくらいかな。あと、醸造で甲州とかベリーAですね。

○知事

3、4反ぐらいやっているんですか。

○参加者

2町歩ぐらい。

ちょっとなかなか、今、手伝ってくれる人がいなくて、苦労しています。

○知事

何かご意見とかありますか。

○参加者

意見というか、私もやっぱり地域の中に入るという形がいいなと思うんですが、なかなか最初、その地域に入る、とっつきにくいということもあったり、いろいろ地域性もあるので、なかなか今時点では、まだそんなにはなじめていないんです。徐々に地域に入っていく感じではあるんですが、近くといってもその地域的には住んでいないもので。

○知事

地域になじむって・・・。

○参加者

一応、その地域といっても支部があったり、そういう形になると、やっぱり一応、支部、支部ごとに決まりがあって、やっぱりそこに住んでいる方でないと、その支部に入れないとか、そういう問題もありまして、一応、臨時というか、副支部員みたいな感じにはなっているんですけども。

○知事

農協のね。

○参加者

そういうところが最初ちょっと不安だったんですが、いろいろな方にご足労をお願いして、力になってもらいまして、副支部員にという形になりまして、私も

果樹というのは1年ではできないものですから、その間というのは、生活していくにはちょっと不安がありまして、その部分のところをどういうふうクリアしていこうかという考えもありました。

○知事

あとはどうですか。

○参加者

現在、北杜市でブルーベリーを学んでおります。

並行して、耕作放棄地対策の制度とかを利用させてもらいまして、今、甲府の北部のほうで耕作放棄地を開拓みたいな感じでやりながら、自分でブルーベリーの植え付けも並行してやっています。

○知事

北部というのは、千代田湖のほうですか。

○参加者

そこはちょっと違って、相川のほう、塚原とか、積翠寺の手前のほうです。武田神社近くと言ったら分かりやすいですかね。

○知事

やっぱり将来はブルーベリーを、観光園の計画はある。

○参加者

いずれはと思っています。

○知事

そこが自分の土地ですか。

○参加者

残念ながら借りているところです。

いろいろと耕作放棄地対策の制度などを活用させてもらい、機材も借りて、いろいろなことをやってはいるんですが、ちょっと使い勝手が悪いところもあると。

例えば機材をレンタルしてもらうことは無料なんですけれども、大型機材を運ぶための運搬車がないんですね。だから、そういったものは運搬業者さんに頼まなければならない。逆に運搬業者さんのほうで日程が合わないと、それを借りてこられないというようなこともありまして。

トータルで、運搬のキャリアとかもセットのような形で、貸し出しみたいなことができるような制度があったら助かるんですが。

○知事

大型の機材、通常であればそういう大きいものでなければ、ちょっとしたトラックに乗せられるとか、そうもいかない。

○参加者

最低でも2トン、3トン、4トンとかというものでないと難しいと思います。特に小型とはいえ、パワーシャベルを何度か使うこともあったので、最低2トンを超えるものでないと、乗せられないと言われました。

○知事

貸すのはいいけれども、運搬屋さんに頼んで持っていってもらわないと。

そうですね、届けてくれるのが一番いいけれどもね。

○参加者

それはそうなんですけれども、残念ながらそこまでは・・・。

あとは、私、現在、アイメッセの近くの浄化センターのほうから、ウッドチップスみたいなものを無料でいただいているんです。甲府市には残念ながらないんですが、笛吹市のほうでしたら、街路樹とかを剪定して、そして河川敷の草とか藻を刈って、それらをすべて細かく剪定したものを、笛吹市民の人たちにほとんど運搬代のみ、ただ同然で出してくれるというような制度があって、それを普通の市民の方から、やっぱり農業をやっている人まで活用しているんです。残念ながら甲府市にはないとか、市によって、ある制度、ない制度が、ちょっとバラツキがあって。

○知事

笛吹市は、そういう剪定枝、あれを細かく切ったものを。

○参加者

それを敷いて、草押さえにしたりとか、人が歩くところに使ったりしています。

○知事

それはもう無料で。

○参加者

ほとんど無料です。

○知事

甲府はない。

○参加者

残念ながら甲府はないんですね。

市によって、ちょっと取り組みがやっぱり違うんですね。

○農業技術課長

剪定枝とか植木の切った、手入れをしたものとか、そういうものを集めて、細かく裁断しているところは、結構あるんですが、今、甲府でそういうことは・・・。

○知事

笛吹でもらっている。

○参加者

そちらの市民の方だけだと思います。

逆に甲府は甲府で、希望者にはEMのボカシ菌とかを無料で配布する制度がありますけれども、そちらは笛吹市のほうにはないとかということで、市町村によって、ちょっと一長一短があります。

○知事

あといかがですか。

○参加者

私は今、甲斐市のほうで、妻の実家がぶどう農家なものですから、4反ぐらいのぶどうを作っております。巨峰とピオーネを。

うちの義理の父が非常に病弱になっているものですから、今回の里親制度で研

修を受けながら、ぶどうの品質向上を図っているということです。

甲斐市も結構周りが荒れていて、耕作放棄地はあるんですが、なかなか地域に根ざしていないと、なかなか借りられないということはあります。

借りたとしても、かなり中山間地なので、山というか丘というか、そこを切り開く形になるので、機械がかなりいるのかなど。資金も含めてということがあるので、借りてもなかなかそこまで手が回るかどうか、ちょっと気になるところ、不安ですね。

ただ、今習っているところで、醸造用のぶどうをかなり専門的にやられているので、私も将来的には醸造用のぶどうをやっていこうかなと思っています。地域にちょうど、敷島醸造さんがございますので、今後、勉強をして。

○知事

あっちの亀沢のほうですか。

○参加者

そうです。

社長さんとか同じ地域……。

そういうことなものですから、しょっちゅう会って話をするんですが。

○知事

今のやっぱり耕作放棄地というのは、地域のつながりみたいなものがないと、なかなか簡単には借りられないと。

○農業技術課長

そうですね。やっぱり今、耕作放棄地の解消の事業というのは結構、土地改良協会ですとか、そういう県事業、国庫事業なんかでもあるんですが、そこを借りるというのは、やっぱりその地域の人たちの仲介というものがなければならぬと思うので、農業委員会の斡旋ですとか、そういうようなことを通しながら、農地のつてを探していただくということが、今のところ一番手っ取り早いかなと思います。

○参加者

うちのほうでも町単の圃場整備事業のお話があがってしまして、事業を進めようかとしているところなんですけど、なかなか意見がまとまらない状況です。圃場整備事業がもうちょっと進んでくれば、土地を交換してまとめることができるし、機械化もできるようになる。ぶどうはなかなか機械化が難しいのですが、やはりSSとか、機械化できるものは極力、機械化していかないと、規模経営が難しいんです。

特に醸造用は規模経営がないと家計が成り立たないので、面積をつくらないといけない。大体、2町歩ぐらいを目指しているんですけどね。生食用だって、大体6反歩、7反歩でもいいぶどうさえつくれば、経営的には可能なんでしょうけれども。地域のことを考えれば、やっぱり山梨県のぶどうでつくられているワインは、山梨県で生産されているうちの2割ぐらいしかない。8割が国外のぶどうの原料でつくられているというお話しですので、ぜひ山梨のぶどうで山梨のワインをつくりたいという、アグリマスターの強い気持ちに非常に打たれまして、

私としても、できればそういうものやっていきたいと思います。

○知事

どこのワイナリーに出しているということですか。

○参加者

ワイナリーは、シャトー酒折ですね。

アグリマスターのところは非常に技術もあるので、自身がレベルをもったワインをつくれるから、本当に勉強になります。なかなか自分のほうの畑とか田んぼもありますので、それを両立するのになかなか難しいなどは思っていますけれども、ぜひそのところは、この里親制度を活用させていただくという中で、ぜひそういったものも取り組んでいきたいと思います。

○知事

ではぜひ頑張ってください。はい、どうぞ

○参加者

今、笛吹市の八代のほうでぶどうの研修をしています。

何か希望することとか、そういうことは何なんだろうなと考えたんですが、なかなかまだそこまで考えつかないというのが実情です。まだ知識もありませんし技術もありませんが、僕のアグリマスターのところも畑を借りて増やしたりはしているんですが、なかなか人が集まらない。じゃあ来年、またそれ以降、自分で実家のところをやったときに、また同じことがあるんじゃないかと思っています。農地を増やして、いろんなことをやりたいと思っているんですけども、たぶんきっと同じそういう状況に直面するんじゃないかと思っています。

○知事

あと、その畑を継ぐわけですよ。

○参加者

そうですね。

○知事

どのくらいあるんですか。

○参加者

畑は8反歩ありまして、それで半分はハウス。

やっぱりアグリマスターもそうなんですけれども、例えば奥さんに子どもができてしまうと、もう1人そこで足りなくなる。それで借りていた農地は借りられない。そういうことが私のほうでもあるのかなということを思うと、そういうところで何かやっぱりセールスじゃないんですけれども、人手の部分にね、いい手段がないのかというのは、やりながら感じています。

○知事

家族農業の場合、そういう点が弱いよね。ちょっと何か事故か何かあるとね。

○参加者

生産法人にすると、そういういろいろあるところで、そういうことは聞いたりするんですが、なかなか個人でやって、中規模で増やしていくというところには、何かそういったところでほしいなど。まだ始めたばかりですけども、そこを

ちょっと感じているんですが。

○知事

研修先のグループは何人かの集まりですよ。

○参加者

今4人ですね。

○知事

その中の誰か1人について・・・。

○参加者

4人とも、いろいろ回らせてもらって、それぞれ何かやり方というか、いろいろ見ながら、自分に合ったやり方を勉強してます。

○知事

確におっしゃるとおり、自分で始められたときには、本当に人手が本当に忙しいときに確保できるかどうかと、一番不安ですよ。

○参加者

4人とも同じ悩みを抱えているので、それはほとんどの農家の方が・・・。

○知事

通年で必要なわけじゃないでしょう。必要なときということでしょう。

○参加者

そこがまた難しいところで、この2、3カ月は勝負というところを、そこだけほしいといっても、なかなか難しい。

○知事

そしてある程度の技術がなければうまくないでしょう。そうでもないですか。

○参加者

私は、4月から始めて、少し頼りにされているのかどうか分からないんですが、ある程度、頑張ってやっているので、そこらへんはどうかまだ分かりません。

○知事

じゃあ、中国人の研修生みたいな人を頼んできて、それもなかなか難しいんでしょうね、きっとね。

○農業技術課長

笛吹市では就労支援センターみたいなところで、そういう簡単な作業の部分については、シルバーの人たちとか、そういう人たちに研修してもらって、技術のある程度持った人を応援隊みたいな感じで派遣するようなシステムを今、整えつつありますので、そういうところも利用していただければ、少しそういう作業が集中するときには、緩和されると思います。

○知事

シルバーとかね、確かにね。

○参加者

そのマスターのところに昔来たシルバーさんが、粒が小さくて見えないな、なんてね、なかなかできなかったというところがありましたけれども。

○知事

はい、どうぞ

○参加者

私は昨年より家業を継いで、桃とぶどうの生産をしています。

現状といたしましては、桃のほうの出荷が、早生種が終わりました、今からはぶどうが出ますので、ぶどうの手入れや管理を行っています。

○知事

どのくらいの面積。

○参加者

1町歩。

○知事

それは大変ですね。

それでじゃあ、自分の土地をやりながら、アグリマスターの指導も受けて。

○参加者

ただ、お互い同じように果樹を栽培して、また観光園をやったりして、なかなか日時を合わせるのはちょっと難しいです。

○知事

指導を受けている人は何人いるんですか。

○参加者

3名です。

○知事

じゃあ、3名のところを時々まわって・・・。

○参加者

やはりいろいろ勉強になります。

○知事

去年から継いでいるということですね。

○参加者

勤めはしていましたがけれども。

○知事

多少はやっぱり手伝って。

○参加者

毛の生えた程度ですけれども、手伝いでもちょこっとですけれども。今年からいよいよ。

○知事

今、どういう種類をつくっているんですか。

○参加者

巨峰、ピオーネ、ロザリオビアンコ、甲斐路。

○知事

甲斐路ね。大変ですね。

○参加者

夢中で今やっているところなんです。朝から夕方まで。

○知事

今年で2年目になるということですか。

○参加者

本格的には2年目です。

○知事

去年はできたんですか。

○参加者

去年はおやじさんの助手という感じで。おやじさん時代の人たちは職人堅気のところがあるので、なかなか聞かなければ教えてくれません。今回はアグリマスターの方々が同年代なので、気軽に話せるので助かっています。

○知事

頑張ってください。

はい、どうぞ。

○参加者

一昨年、会社を辞めて、農業を始めようと思って、いろいろ情報を調べて研修先を探しました。今、御坂の黒駒で研修させていただいています。もう2年目なんですけれども、今年から定着支援制度が始まって、それを受けることができるということで、何も頼るものがなかったときに比べたら、断然いろいろ金銭面的にも助かりますし、農地の情報をいただけるということを知っていますし、すごくありがたい制度だと思っています。

○知事

いろいろアドバイスしてくれますか、指導者は。

○参加者

そうですね。実はもう自分の畑も4反ぐらい持っていて、研究しながら自分のところをやっているんですけれども。たまに自分の畑を見てもらって、管理がうまくいっているかとかアドバイスを受けています。

できれば将来は観光農園をやりたいと思っていて、ある程度まとまった農地を探しているところです。まとまった農地というのは、なかなか個人の力でつけていくのが難しい部分がありまして、できればそういった農地を貸してもいいよという人の状況をまとめたデータベースというものを、志のある人が見れるような、何かインターネット上のサイトであったり、情報の公開をぜひしていただきたいなというのは、すごい希望です。

○知事

農地バンクみたいなものだね。

農協によってはサポートセンターみたいなことをやっているんですよ。

○農業技術課長

農地情報は、農業委員会のほうが貸したい人たち、借りたい人たち、そういう情報を持っていますので、これから情報の一元化みたいな格好で県一本でそういう情報を取りまとめするというシステムを考えているところです。

○知事

一本化するというのは、どういうことですか。

○農業技術課長

遊休農地とか、そういう農地の登録をして、それを一元的に管理をして。

○知事

それをやろうとしているの。

○担い手対策室長

町内だけではなくて、町外も見られますので、地元だけじゃ、いい適材のところがなければなりませんので、そういう意味では県が主体になって、一番いいところを探されるというのは、いい方法になるんじゃないかなとは思いますが、そういう点で私どもも仕事をしていると。

○知事

それはいつごろできるんですか。

○農業技術課長

一応、マップ上に遊休農地が落としてあるのは、もうすでにできています。

○知事

例のあれだね、緑のやつをね、マップ上にね。

地図で詳細に分かるんですよ。あれは航空写真ですか、全部。それをだけど、借地かどうかというのは分からないじゃんね。

○農業技術課長

だから、その土地をあてに、今度は農業委員会とかに対応していただく形で、情報を取っていきたく。具体的な情報は農業委員会のほうで。

農業委員会で調査して、それをデータ化してやる。

○知事

調査して、あの土地を貸してもいいよという人とか。

○農業技術課長

そうです。全部含めまして、リストアップして。

○知事

遊休農地を全部リストアップしまして、その後の遊休農地は地主が貸してもいいと思っているとか、貸せないとか、そういうデータが全部入っている。

○参加者

それが見られればいいんですが。

○知事

今は、農業委員会に聞くのが一番いいということですかね。

ぜひ、頑張ってください。

はい、どうぞ。

○参加者

今、山梨市の観光グループのところで研修しています。

7人いまして、スポットで忙しかったら手伝ってくって感じなので、いろいろ

覚えるのも大変です。作業の流れが違うので。

○知事

全部、桜桃ですか。

○参加者

桜桃は全員やっているんですが、その他にも、桃やぶどうもやっています。

○知事

あなたは桜桃をやりたいの、そういうわけでもない。

○参加者

桜桃をメインでぶどうも大体1町歩ぐらいできれば・・・最終的に。

○知事

奥さんと一緒にやるんですか。

○参加者

いいえ、1人です。

一応、父と母が農業をやっているの。

○知事

その土地をとということ。

○参加者

全部を合わせると7反ぐらいあるんですけども、まだ取れるのが4反ぐらいなので、徐々に増やしつつ……。なかなか周りに借りられるかなという心配はありますが。

○知事

そうだね。分かりました。

○参加者

私は山梨市の牧丘に現在住んでおります。昨年、神奈川県から両親と3人で山梨に移り住んできました。

○知事

それは貴重な方ですね。

○参加者

そうですね、私もそう思います。

たまたまちょっとこちらに知り合いがいたこともあって、山梨という地を選んで、牧丘に来たのは本当に偶然です。

私も農業大学の訓練課の短期野菜コースというものを受講しておりまして、野菜をとりあえず勉強していたんです。

なぜ野菜かって、ぶどうもやってみたいなと思っていたんですが、やはり果樹の畑をお借りするというのは、すごく大変なことじゃないかなと思ってます。やはり果樹農家さんはやっぱり丹精を込めてとか、一生懸命、代々にわたって育てられて来たところを、急にポッと来た人間に貸すというのは、難しいのかなと思ったからです。耕作放棄地的なところであれば、開墾すれば野菜ぐらいは、ぐらいと言うと失礼ですが、野菜なら始められるんじゃないかというような思いがありました。

それで、たまたま牧丘に住んで、里親のところでは勉強させていただいていますが、その方の口利きで成園をお借りすることができて、研修をさせていただきながらも、自分の農地をやらせていただいているというような状況です。

特に行政の方々に何か要望がというよりは、できれば私も先ほど皆さんもおっしゃったように、地域の一員に早くなりたいと思っています。地域の方々に認めていただけるような、口からそういうふうにも、できていないんですけれども、何とか少しずつでもできるようになっていって、農地もやはり借りたいというようなお話をしても、やっぱりその所有者の方々は、あいつじゃ駄目だよとか、借りてもらいたいという気持ちはあっても、あいつじゃなとか、あいつならなとか、やっぱりあると思うんですよね。それは畑に限らず、例えばアパートとかマンションでも、もちろん何でもそうだと思うんですよ。

だから、データベースとかデータバンクとかをつくっていただくということもそうですけれども、まずこちら側もきちんとやるべきことをやっていったら、それにはどうしても時間がかかります。

私は両親とこちらに土地と家も購入したので、地域に正直入りやすかったんですよ。空き家とか、そういうところをお借りして、その土地に住むのと、買ってそこに住んでいくというのは、たぶん周りの人たちの見方も違うと思うし、こちら側の地域の方への接し方もちょっと違いますので、私はそういう条件の下で始めることができたので、早いうちに農地をお借りすることもできました。やっぱり新規就農で、特に県外から、県外でなくても違う地域から、その土地に行ったら、やはりなかなか土地を借りるとか、近隣の方と接するとかというのは、すごく難しいんじゃないかなと。

私も機械化して、できれば耕作、自分の畑を広げていきたいと、経営規模を拡大していきたいと思っています。やはり本当に機械がないと、機械がないとできないかということ、それはもう言い訳でしかないわけですが、それによって、ある程度やっぱり短縮できる時間というものがありますし、いくら1人の人がすごいといっても、3町歩も5町歩も1人でできないので、やっぱり1町歩とか2町歩ぐらいがマックスだと思いますので。

だから、できれば機械化を私もしていきたい、機械を購入したりして、その商品を買うとかということを目指していきたいと思っています。

近隣の方もこれで、来年、再来年の話でも、10年後というと、だいぶリタイヤとか引退されていく方が、私の住んでいる近隣の方の状況でもたくさん出てくるんじゃないかと思うんですよ。やっぱりそういう方々の畑を担うには、できるだけ若い人たちに担っていただくしかないんですけれども、ですから、かといってたくさん県外から来てくれるというのもなかなか少ないと思いますし、県内の方に、では農業をやってくれと言っても、やめていかれる方をカバーするのは、すごく難しいと思いますので、それにはやっぱりある程度、機械を投入して省力化していくということしかないと思います。

すみません、ちょっととり止めがなくなってしまうかもしれませんが。

本当にこの地域に解け込んで、おっしゃるように、だんだんもう耕作放棄地が広がってきますからね、それはもう地域の代表として引き受けるぐらいのつもりで、ぜひ頑張ってもらいたいですね。

○参加者

そうありたいと思っています。

○知事

どうぞ。

○参加者

山梨市の牧丘からまいりました。

私はぶどうをやるために牧丘に来たんじゃなくて、経済活動もしていかなければならないということで、周りを見渡すとぶどう畑ばかりで、信頼に応えられるかどうかは別として、貸し手も多いということもあって、ぶどうをやろうということにしました。

気持ち的に私がやりたいのは、有機の少量他品目という形の農業をやりたいと。ぶどうをつくって生食として売ることだけではなくて、どちらかと言えば加工をメインにして、単価を上げていくというようなことを考えてやっています。

私の中で、自分の畑とそれ以外の借りている畑への意識がすごい区別が付いていて、お借りする畑はもう市場に合わせた形で商品ができるように、機械などを使っていくと。そして自分のところについては、なるべく人手を借りて農業体験とか、そういう形で人を集めながら、お互いにメリットを共有しながら経営していきたいと思っています。

実際のところ農業に、担い手という部分でやっているわけなんですけれども、私としては現在の形の農家というものを目指して、というところとちょっと。まだ明確に姿は見えていないですけども、ちょっと違うのかなという感じがしています。

○知事

分かりました。はい、どうぞ。

○参加者

お茶をやっています。

○知事

南部町で、お茶ですね。

○参加者

私のいるところは畑と製茶、加工をやっているんですが、やはり南部町も高齢化しているということで、手伝ってもらっている人が、たぶん平均すると、もう70歳近い人が大体20人ぐらい。

今はまだいいんですが、5年後、10年後どうなるのかなということが、私にとっては一番心配なことなんです。なかなかほかのお茶をやっている人もみんな高齢化してる人たちがいっぱいいるから、私と同じ世代の人というのは、ほとんど見ないですね。

○知事

若い人でお茶をやるという人はあまりいませんか、南部で。

○参加者

いないですね。

1カ月ぐらい前にJ A富士川のお茶の管理講習会に参加したんですが、大体出ている人が60歳以上ぐらいの人ばかりで、私と同じぐらいの人はそんなにいなかったです。

○知事

今それでどうしているんですか。

どこへ出しているんですか。富士川農協にみんな出しているんですか。

○参加者

出すことはなく、大体決まっているお客さんがいまして。

○知事

じゃあ、もう摘み取ったものをちゃんと加工して、もうお茶っ葉にして、それでも出荷しているわけですか。自分で。

○参加者

そうですね。古くからのなじみがありまして。

あとは近所のお茶をつくっている人のお茶を加工したり。

○知事

それで自分1人でなくて、何人かを雇ったりしてやっているということですね。今20人ぐらいいるって言ったね。

○参加者

大体4月の下旬から5月まで大体1カ月近くあるんですけども、アグリマスターの方の親戚とか知り合いの方に声をかけて、大体、毎年、製茶に10人ちょっと、茶摘に10人ちょっとぐらい手伝っていただいているんですが。

○知事

かなりの面積、どのぐらいの面積ですか。

○参加者

1町1反。

○知事

お茶畑というのは、そのぐらいでもそんなに手がかかるんですね。

○農業技術課長

手摘み部分があったり。

○知事

なるほどね、頑張ってください。

なんなら南部のお茶を全部借りてやったらどうですか。

はい、どうぞ。

○参加者

野菜なんです、上野原市からまいりました。

郡内地区の一番東のほうなんです、ご存じのとおり、砂岸段丘で土地がだだっ広いところがあって、土地探しはすごく厳しい場所で、住宅地は結構多いんです

が、山間部のほうにいくとサルとかイノシシが出たりして、そういう場所に借りるのはリスクが高いということで、今やっているところも山間部ですけども、そこはイノシシしか出ないので、アグリマスターの方から耕作放棄地を開いて、私も今1反5畝ぐらいをその中で借りて、私名義の畑ではなくて、アグリマスターに1カ月ほど預けてもらって、野菜をつくっております。

今ちょっと薬物というのは取れないんですが、珍しいんですが、クウシンサイとかツルムラサキとか、意外なそういうシェアが、談合坂「やさい村」、私はもちろん売っていないんですけども、そういうシェアがありまして、結構売れています。薬物というのはイメージ的にいうと、北杜市のような高冷地で冷たい風に当たったものを食べる方が、実際、本当においしいんですけども、上野原でもクウシンサイやツルムラサキのようなぬめりがある、ねばねば野菜なんか意外に東京の方のシェアを得ているということで、面白い発見をしています。

一つ、ちょっと要望なんですけど、国道20号をずっと来ると道の駅が大和村までないので、ぜひ上野原に誘致をよろしくお願ひしたいと思ひます。

結構、上野原って個人農家さんというのが結構多いんですけど、自分たちだけでは売れないし、やっぱり販売先を今から探すというのは時間もかかり、難しいと思ひますので、道の駅などがあるとありがたいです。

国道20号自体が大月まで本当に何も無い、素通りするような状況で、今高速が無料だとか、1千円とか安くなりますけれども、若い人たちの中には、下から行きたい人もたぶんいると思ひますし、景色を見ながらドライブする方々もいるんじゃないかなと思ひまして、ぜひお願ひしたいななんて思ひてます。

○知事

そうすると、今、自分の畑はないわけですか。

○参加者

そうですね。

○知事

じゃあそのアグリマスターの方の畑を手伝っているというわけですね。

○参加者

そうです。その中で1反5畝、自分の権限でつくらせてもらっているところがあります。

○知事

クウシンサイとかツルムラサキなど野菜は、どこへ出しているんですか。アグリマスターが出しているんだろうけれども、どういうところへ、どういう販売・・・。

○参加者

そのアグリマスターの方は談合坂の野菜村のほうに、100%シェアで。その方は1町やっているんですけども。

○知事

全部出しているんですか。

○参加者

そうですね。

○知事

全部、あそこの談合坂に出している。

○参加者

そうみたいです。

たまにそのレストランの方がいきなりキャベツを持ってきてくれとか、それに急きょ応えたり、そういう形でもやっている。

○知事

それも1つ、いいよね。1千万農家だね。

○参加者

そこまでいっていないみたいですがけれども。

○知事

でも大したものですよ。そういうものも大事ですよ。

ついこの間和歌山県へ行ったのだけど、日本一の道の駅があってね、「めっけもん市場」、年間売上37億円、すごいよね。

○参加者

茨城ですか。

○知事

いやいや、和歌山県ですね。これは日本一の農家ですよ。日本一の売上高の道の駅でね、これはすごいものですよ。2千万円農家というのが、何か数10軒ぐらいあるんですって。1千万農家もあって、全部で千何百軒の農家がこの道の駅に農産物を入れているんですよ。本当大きいものですね。あれだけのものをつくるというのは大したものだ。農協がやっているんですけれどもね。

だから、ぜひ頑張ってもらいたいですね。そのうち談合坂へ入れられれば、権利があるのかな。

○参加者

入れていいよと、よろしいんですかということをお聞きしたいんですが。

○知事

談合坂、あれはどうなっているんですか。

○農業技術課長

部会をつくっていると思います。

○担い手対策室長

入れられると思いますけれども。

○参加者

いいんですか。

○担い手対策室長

問題がないと思いますけれども。

○知事

しかし誰でもというわけにはいかないでしょう。

○農業技術課長

今入れている方の知り合いなので、その方を通してお話しすれば・・・。

○参加者

実際、土地とかというのは確保してはいけないんですよね。今回の支援制度に載っている人たちは。土地を確保してはいけないんですよね。

○担い手対策室長

新しい方はうまくないと。新参加者はうまくないという、またそれは地域の農務事務所とも私どももちょっと相談をさせてもらって、支援させてもらいたいと思いますけれども。

○知事

確かに、国道20号に道の駅が1つぐらいあってもいいんじゃないかなと思いますよね。

○参加者

ぜひ。もう私、場所は大体ここがいいんじゃないかと言いたいぐらいなんですけど・・・。

○知事

農協が大体つくるんですよね。

県が直営でつくるといっているのはないからね、市町村か。

○参加者

結構、上野原はグループ、グループがまとまって、斯く斯くは直売所はあるんですが、これこれ、こういうお金を払わなければ駄目とか、こういうことを手伝ってもらわないと駄目とか。すごく厳しいんですよね。そういう土壤なのか。

私なんかすごく生意気なんで、新しいことをやるとやっぱりそれじゃ売れないぞとか、そういう頭でガツンといわれるので、私はたけのこみたいに伸びていくしかないんですけれども。

○知事

すぐブレーキをかけられるわけだ。

○参加者

そういう土壤なんですよ。でも、話せばすごく温かい方たちがいらっしやいますし、そういう人たちに手伝ってもらって。

○知事

ぜひ頑張ってもらいたいですね。

道の駅は県がつくるというわけにはいかないから、いろいろ話をしてみましよう。つくったらいいと思いますね。どうせつくるなら、そういう先進的な事例を参考にしてやったらいいと思いますよね。

○農業技術課長

補助事業として県の事業がありますので、支援できることはできると思います。ただ、どこがやって、どういう形のものをつくるかというのは、それぞれの地域の中で十分練っていただいて。

○知事

いかがですか。一当たり話を聞きましたが、ほかに何か意見でもいいし何でも

いいし。

○参加者

研修なのですが、来年もしやられるようであるならば、1月からされたほうが良いと思います。

果物を中心に、私の場合だと4月に始まる、3月に申し込みさせてもらったのですが、3月に私も畑を借りていたのですが、研修を受けようということ、全く想定せずに借りていて、なので研修の内容とアンマッチの広さというところがあると思うんですよね。借りてない状態であれば全然問題ないかもしれないですが、でも4月に始まると、ぶどうの場合ですと剪定が終わっていますから、もうある程度できた畑の状態のころに始めるよということになると、ちょっとちぐはぐなのかなと。

○知事

それはどうですか。

○担い手対策室長

4月から3月というのが、予算年度で、その間に研修を組むというのが・・・。

○参加者

理由はたぶんそうなんだろうなということはあるんですが、ただ同じ果樹でやろうとされるのであれば、やっぱり12月とか1月とかの関係で、予備剪定の状態から始めないと、始まりからやっぱり始めないと分からないこともあるんじゃないかなと。

○知事

だから9月に予算を組んで、繰り越しをするということですよ。そういうやり方が一番いいですね。

○担い手対策室長

少し前から事前研修ですか。準備を私どもが先に進めさせてもらって、事前研修的なものを何かそういう意識付けとか、そういうことでさせてもらう。

○参加者

言えば、収穫が終わった直後ぐらいから土づくりから始まるというのが、たぶん来年度の準備だと思うので、そこからやらないと、見えるものが見えなくなるということがあるから。

○知事

それは検討しましょうね。来年というか今年からすぐというわけにはいかないかもしれないけれども、それは大事なことですよね。

ほかにありますか。

○参加者

基本的にアグリマスターさんを通じて農地を取得するケースが多いんじゃないかと思いますね。そうするとアグリマスターさんがどういう姿勢を持っているかで、かなり左右されるんじゃないかなというように思うので、そのところを組織的な考えで県のほうでまとめていただけないかなと思っております。

なぜかという、私は甲府のほうで研修を受けていますけれども、実際に就農

しているところは甲斐市、甲斐市のほうのぶどうの生産地というところになる。やっぱりそういうことを考えていくと、ほかの方もそうだと思いますが、行政区域が違うとなかなか壁が厚いんですね。この行政区域の壁を取り払っていただくのが、やっぱり農家からすると県しかないということになるので、そこを取り払っていただくか、どなたか言ったと思いますが、農業で食べていくということで、ある程度の規模がないと食えないんですよ、実際に。

食えないので、みんなどんどん農家をやめていく。それは専業農家として経営が成り立たないからなんですね、結局は。その経営が成り立たないもとは何かということを見ると、規模の拡大にどうしても歯止めをかけるころは何かと。そのころは、やっぱり行政区域の問題を抜きにしては語れないんじゃないかなと。

だから、情報の一元化だけではなくて、農業委員会ともよく話をさせていただいて、行政区域を超えた農地を借りたり貸したりという、情報の共有化が非常に必要になるんじゃないかと。農業委員会は農業委員会で非常に熱心にされていることはそうなんですけど、やはり縦割り行政なのでどうしてもここしか知らない。この農業委員会へ行ったら、こっちの農業委員会へ行ってくださいという話にどうしてもなるので、それをなくしていくのが県政の問題だと思いますし、今回、里親制度をスタートさせるにあたって、兼業農家育てるわけじゃないと思う。専業農家を育てるといって、知事さんの強い意志があって今回の制度がスタートしているということを知っていますので、とりあえずは専業農家を目指す私たちとしては、やっぱりそこで何がネックかという、やっぱり特にぶどうなんかだと、植えてすぐにお金にもなりませんから、3年も4年もかかって、やっと成園化して、それで食えるようになるかという商売ですから、やっぱり先行投資するためには、農地の取得がある程度スムーズに進むようでないとなかなか生きないんじゃないかというのが私の意見です。

#### ○知事

さっきアグリマスターにやっぱりこういう仕事をしてもらおうと。こういうことをしてもらおうとということ、ある程度きちっと共通理解を持ってもらわないとね。

#### ○参加者

ですから、これは県のほうでアグリマスターさんを集めて、そこらへんの共通認識を持ってもらう努力をしてもらいたいです。

#### ○知事

いろいろもちろん、単に技術を教えるだけでなく、その他もろもろ、新規に就農することについてのアドバイス、地域とのいろいろなつながりとか、そういうことを含めてやってもらおうとですよ、ということはいっているんですよ。

#### ○担い手対策室長

今回56名がアグリマスターにつきましたので、その方たちについては、指導をさせていただきまして、巡回をしたときにアグリマスターの人に言ったり、できるだけ連絡を密にしながら、せっかくの機会ですので、全面的に支援するよう

にしていきたいと思っています。

○農業技術課長

あと、各農務事務所の現場の普及員たちも、皆さん方の相談にのることになっていきますし、時々はお伺いするという形にもなっていますので、そういうところでご相談いただいたり、いろいろな取り組みなんかを聞いていただければありがたいです。

○知事

そうはいつでも人間だから、いろいろな人がいるからね、難しいけれども。どうですか、ほかには何か。

これからだから、一つ皆さんに頑張ってもらいたいですね。

それぞれ皆さん方、新しくそういうことで研修を始められて、いろいろな課題に挑戦をしておられるわけですが、ぜひ頑張ってもらいたいです。おっしゃったように、やっぱり兼業ではなくて、専業の、食っていける、要は日本の農業が衰退したのは、食っていけないからだ。だからやっぱり食っていける農業、そういう農業をつくり出さなければいけないですよ。

それはやっぱり今までの農業のやり方では駄目なので、いろいろな土地の集約をしたりとか、機械化をしたりとか、いろいろな工夫をこらしていかなければならないと思います。

今日はあまり話が出ていないけれども、いざ農業を経営して一人立ちすると、今度は販売の問題が出てくるからね。農協にそのまま出していいのかということがあって、さっきの南部の方からも話があったように、自らがやっぱり販路を開拓していかなければならない。そういうこともしないと、なかなか一人立ちできないというか、食っていけることにはならないからね。そういう課題もまた出てくると思いますね。

皆さま方のこれからの道というのは、決して平坦ではない。山あり谷あり、ご苦労が多いと思いますけれども、しかしチャレンジをするに足る仕事だと思いますので、ぜひ頑張ってもらいたいです。

県も、最大限応援をするような体制をつくっていますので、皆さんと一緒に山梨の農業がしっかりと再生し、継続するように頑張っていきたいと思っています。

どうか皆さん、頑張ってください。

本日はありがとうございました。

○司会

以上をもちまして、ひざづめ談議を終了させていただきます。